

令和4年度 大学との連携事業「つながる学び みと☆Future college」実施報告書

拠点校名 水戸市立柳河小学校

連携大学 常磐大学

研究主題 学ぶ意欲をもち、自分の考えを表現できる児童の育成
～他者と関わり合い、主体的に活動できる場の工夫を通して～

1 主題設定の理由

本校は、水戸市の北側に位置し、那珂川沿いにある学区で、周囲は田畑に囲まれた市内でも比較的のどかな地域に位置している。年々児童数は減少しており、現在は水戸市内で最も小規模な小学校の1つである。全学年が単学級でクラス替えもなく進級していくため、人間関係が固定化されやすく、多様な意見に触れ合う機会が少ないことが課題である。また、学校生活アンケートでは、「学校の授業では、すすんで学習に取り組んでいる」と回答した児童は91%（7月）であったが、「授業中にすすんで自分の考えを發表できる」と回答した児童は71%（7月）であった。このことから、学習への意欲はあるが、自分の考えや思いを表現することに苦手意識があると考えた。そこで、他者との関わり合いの中で、だれもが「自分の考えを表現したい」という意欲をもち、自分の考えを進んで表現できる児童の姿を目指し、本主題を設定した。

2 研究のねらい

主題にせまるため、大学との連携を通じて昨今の地球上で起きている戦争や貧困などの社会問題や地球温暖化・資源再利用などの環境問題など、世界的な様々な現代社会の課題に、教員や児童の目を向けさせる。児童と大学生との関わり合いを設定することで、多様な意見とふれ合いながら主体的に学習に取り組める場の工夫を行う。世界共通の目標である「SDGs」への取り組みを柱として、学習活動の場で自分の考えを進んで表現できる児童の育成を目指し、2年間の研究を進める。研究の1年目は、大学の授業と連携しながら世界にある様々な現代社会の課題に目を向けさせ、持続可能な開発目標（SDGs）を知ること、教師や児童の視野を広げる。また、それらの課題を自らの問題として捉えさせる探求的な学習において、遠隔地の大学生とオンラインで繋がったり、交流授業を行ったりすることを通して、多様な見方に触れるとともに、児童の学ぶ意欲と表現力の向上を図ることを目指す。

3 具体的な取組内容

(1) 校内の環境整備の工夫について

SDGs学習への意欲を高めるために、各教室の背面にSDGsカードを設置し、

普段の授業の中で出てきた学習内容がSDGsの17項目の何について結びついているかを可視化できるようにした。

また、昇降口から上がる階段には、1年生でも読めるようにひらがなをつけてSDGsの17項目を掲示し、いつでもだれもが生活の中で目に留まるように配置した。



教室掲示：SDGs17項目



廊下掲示：児童ポスター



階段掲示：SDGs 階段

(2) 教師の授業力・資質向上について

① 校内研修の充実



本校では、研究主任を中心として全職員でSDGs学習に取り組むこととし、「まごころタイム」「社会科」「家庭科」「生活科」などの時間を活用し、教科横断的にSDGs学習を行うこととした。そのため、SDGs研修を全職員で定期的に行い、SDGsについての共通理解を図り、授業づくりに生かすようにした。

② 大学連携による専門性の高い研修の実施

大学の講師から、探求的な学習の支援の在り方についての指導や助言を受け、教職員の授業力・資質向上を図った。



<交流授業のための授業づくりの研修>

- | | | |
|---|------|------------------|
| 1 | 日時 | 令和4年6月23日(木) |
| 2 | 場所 | 柳河小学校 図書室 |
| 3 | 参加者 | 柳河小学校職員 |
| 4 | 内容 | 常磐大生とのSDGs動画共同制作 |
| 5 | 実施方法 | オンライン (Zoom) |
| 6 | 講師 | 常磐大学 石崎友規先生 |

7 実施内容

大学の講師と連携し、大学生と児童との交流授業づくりに取り組んだ。具体的には、「今、世界や日本で、どんな問題が起きているのだろう」という学習課題から、事前に授業の教材となる低学年「目標2 飢餓をゼロに」中学年「目標15 陸の豊かさも守ろう」高学年「目標14 海の豊かさを守ろう」に関する動画作成を大学生に依頼した。本校の職員が作成された動画を視聴し、発達段階に応じた動画になっているかどうかを確認し、どのように修正したら児童に分かりやすくなるかを検討した。検討した結果は大学生に伝えられ、動画の手直しが行われた。講師からは、探求的な学習の評価の在り方についての助言があった。



<大学講師による探求的学習の授業づくり研修>

- 1 日時 令和4年8月22日（月）
- 2 場所 柳河小学校 図書室
- 3 参加者 柳河小学校教員他
- 4 内容 総合的な学習 探求的な学びのねらいと評価
～児童のよりよい探求を目指す
ルーブリック作成演習～
- 5 実施方法 対面
- 6 講師 常磐大学 石崎友規先生

7 実施内容

大学の講師による質の高い助言・指導をもとに、ルーブリック作成演習を行った。「児童の興味・関心」「教師の意図」「教材の特性」の3つの視点から、中心となる活動を考えながら、低・中・高学年グループに分かれて単元の目標を作成した。

(3) 児童の学ぶ意欲と表現力向上への取り組みについて

① 大学生とのオンライン交流授業の実施

<大学生による児童との探求づくりの授業実践>

- 1 日時 令和4年7月7日（木）
- 2 参加者 全学年児童・常磐大大学生
- 3 実施方法 オンライン（Zoom）
- 4 実施内容等

事前に児童は大学生が作成した動画を視聴し、各自感想や質問を考えた。この感想や質問をもとに、遠隔地にいる大学生と Zoom でつながり、オンラインで交流した。大学生は、自分たちが作成した動画を見た学年の Zoom に入り、児童の質問に答えたり説明を行ったりした。児童は動画を見て疑問に思ったことを大学生に質問したり、大学生の説明を聞いてさらに疑問に思ったことを再度質問したりして、自分の考えを伝えたりした。



<成果の発表と意見交換の授業づくり>

- 1 日時 令和4年11月2日（水）
- 2 参加者 全学年児童
- 3 実施方法 対面
- 4 実施内容等

「SDGsの達成は、私たちにとって、どうして大切なのだろうか」という課題について、グループまたは個人で作成したウェビングマップの掲示物をもとに、児童はプレゼンテーションを行った。常磐大学生からの感想や意見に対して、児童はさらに自分の疑問や考えを相手に伝えようと進んで発言し、大学生が支援を行った。



4 成果（進捗状況と今後の課題）

大学と連携し授業研究を含めた校内研修を定期的に行ったことで、教職員の「SDGs 17項目の理解」が54%（7月）→84%（1月）と向上した。特に大学の講師による助言や演習を通して、探求学習の流れを意識し、学習目標と評価を一体的に考えようとする意識に変容した。1年目である今年度は「持続可能な開発目標（SDGs）への理解」を目標にして、他者との関わり合いを大切にしたい授業を行った。児童は多様な意見や考えに触れ、進んで自分の考えを伝えたり質問したりして、学びを深めることができた。また、児童は世界で起きている問題が、自分たちの身近な問題と繋がっていることも気付くことができた。さらに、SDGsの目標はその他の目標とも関連していることに気付き、自分の考えを大学生に表現することができた。学校生活アンケートでは、「学校の授業では、すすんで学習に取り組んでいる」と回答した児童は91%（7月）→94%（12月）と高く、さらに「授業中にすすんで自分の考えを発表できる」と回答した児童は71%（7月）→81%（12月）と成果が見られた。

2年目は「アクション！柳河SDGs」をテーマに、これまでの学びをもとにSDGsを実践していく学習の中で、大学生との関わりを持つ活動を工夫して、児童が主体的に活動する力を高めていきたい。



児童の学びの足跡

- 1 学習をしてみて、自分たちの未来が心配だと思いましたか。
はい いいえ
- 2 1で答えた理由は何ですか。（はいと答えた理由 いいえと答えた理由）
自分達人間のせいで、生き物の居場所が狭くなってしまったり、地球温暖化、大気汚染、水質汚染などになっていて私たちがそんな地球に住んでいたS、体の調子が悪くなってしまうと考えたから。
- 3 「発見！柳河SDGs」の学習をやってみて、感じたことを自由に書きましょう。
柳河小の周りにはあまりないかなと思ってたけど、今まで関心がいなかったけれど、SDGsについて学んだことで、私達の身近な所にたくさんSDGsがあることに気づくことができた。